

科目名	教育社会学			科目コード	5003
開講学科	教職課程	単位数	2	形態	講義
教員名	土屋尚子				
授業の目的及びテーマ					
社会に氾濫する、様々な教育言説に惑わされることなく、現代の学校教育の課題に対して客観的に向き合うために、教育という営みを社会事象の一つとして認識し、その構造、機能や意味を考察する。到達目標：教育格差、ジェンダー、子ども・若者「問題」、教育改革、これら授業でとりあげた教育事象について社会とのかかわりから説明することができる。					
授業概要					
「教師聖職論」に象徴されるように、伝統的に教育は聖なる営みと見なされてきている。人々は聖なる教育に対し、大きな期待を抱くがゆえに、そこにあてはまらない教育事象を「問題」視する。本講義では、複数の教育事象を取り上げ、教育を聖なるものとしてではなく、社会事象の一つとしてとらえ、ありのままを観察し、分析する。そのうえで、あらためて教育の何が「問題」で、何が「問題」でないのかを考察していきたい。					
授業計画					
第 1 回：教育社会学とは何か（教育から社会へ、社会から教育へ、教育の中の社会）学校経営の観点から理解する					
第 2 回：教育格差と社会—現代社会における「格差」の実態（格差社会論、教育の格差論、学力調査、家庭環境と学力の関連性）					
第 3 回：教育格差と社会—学力格差・意欲格差・希望格差（保護者の教育願望、貧困家庭、学習阻害要因、機会の不平等）					
第 4 回：教育格差と社会—格差の縮小を目指して （ヘッド・スタート計画、教育アクション地域、子どもの貧困対策の推進に関する法律、力のある学校）					
第 5 回：ジェンダーと社会—男女別のカリキュラム（ジェンダー、性別役割分業観、中学校、高等女学校、家庭科）					
第 6 回：ジェンダーと社会—かくれたカリキュラム （男女を分けない教育、かくれたカリキュラム、ジェンダー・バイアス、進路選択）					
第 7 回：ジェンダーと社会—ジェンダーに敏感な教育 （「男子問題」、性的マイノリティ、ジェンダーに敏感な教育、男女平等教育）					
第 8 回：子ども・若者「問題」と社会—家庭の教育力は低下したのか （地域社会における産育、家庭の教育戦略、親役割の拡大、家族の多様化）					
第 9 回：子ども・若者「問題」と社会—青少年凶悪化言説を問い直す （少年犯罪の実態、若者への社会的関心の高まり、神戸連続児童殺傷事件、少年犯罪報道の問題点）					
第 10 回：子ども・若者「問題」と社会—若者の社会化と逸脱 （社会化、エージェント、反社会的行動、非社会的行動、ボンド理論）					
第 11 回：子ども・若者「問題」と社会—若者文化と学校 （絶対的価値規範の衰退、コミュニケーション能力、スクールカースト、友人関係）					
第 12 回：教育改革と社会—臨時教育審議会答申が提起するもの （教育の公共性、画一主義教育への批判、臨時教育審議会、個性重視の原則）					
第 13 回：教育改革と社会—新自由主義に基づく教育改革 （新自由主義、公的サービスの民営化、公教育自由化論、学校の個性化）					
第 14 回：教育改革と社会—社会に開かれた学校を目指して （学校の個性化、地域の教育力、学校運営協議会、学校・地域の連携と協働）					
第 15 回：教育改革と社会—子どもの安全・安心を保障するために （安全確保、危機管理、学校保健安全法、学校事故対応に関する指針）					
テキスト	「新版 教育社会学」 岩永雅也、稲垣恭子、（放送大学教材）		参考文献	各回で紹介	
評価方法：					
課題提出 4 課題及び筆記試験					